

**知床世界自然遺産地域
適正利用・エコツーリズム検討会議の設置について**

1. 目的

知床世界自然遺産地域の適正な利用およびエコツーリズムの推進を図り、多様な野生生物を含む原生的な自然環境を後世に引き継いでいくため、学識経験者、関係行政機関、地域関係団体による検討会議を設置する。

2. 検討会議の構成

検討会議は、「知床世界自然遺産地域科学委員会 適正利用・エコツーリズムWG」と「知床世界自然遺産地域連絡会議 適正利用・エコツーリズム部会」の合同開催により組織する。

事務局は環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道が務める。また、検討会議の座長は、適正利用・エコツーリズムWG座長が務める。

○適正利用・エコツーリズムWG委員（敬称略）

敷田麻実 北海道大学観光学高等研究センター【座長】
愛甲哲也 北海道大学大学院農学研究院
石川幸男 専修大学北海道短期大学
小林昭裕 専修大学北海道短期大学
庄子康 北海道大学大学院農学研究院
中川元 斜里町立知床博物館
間野勉 北海道立総合研究機構環境・地質研究本部環境科学研究センター

○適正利用・エコツーリズム部会

①地元関係機関

- ・ウトロ地域協議会
- ・ウトロ漁業協同組合
- ・知床斜里町観光協会
- ・知床羅臼町観光協会
- ・羅臼町・知床世界自然遺産協議会
- ・羅臼漁業協同組合
- ・知床ガイド協議会
- ・(財)知床財団
- ・知床エコツーリズム推進協議会
- ・知床自然保護協会
- ・斜里山岳会
- ・羅臼山岳会
- ・羅臼遊漁釣り部会
- ・斜里第一漁業協同組合
- ・斜里町小型観光船協議会
- ・知床羅臼観光船協議会
- ・(財)自然公園財団 知床支部

②関係行政機関

- ・釧路開発建設部
- ・網走開発建設部
- ・北見運輸支局
- ・釧路運輸支局
- ・網走海上保安署
- ・羅臼海上保安署
- ・北海道警察釧路方面本部
- ・北海道警察北見方面本部
- ・斜里町
- ・羅臼町

3. 検討会議の進行等

検討会議は座長が招集し、議事進行を行う。また、検討会議は原則として公開とする。

適正利用・エコツーリズム検討会議の結果と今後の課題等

1 会議等の開催結果

平成22年6月22日 H22年度 第1回適正利用・エコツーリズム検討会を開催

※「知床世界自然遺産地域科学委員会 適正利用・エコツーリズムWG」と「知床世界自然遺産地域連絡会議 適正利用・エコツーリズム部会」の合同開催

主な検討内容

- ・ 個別課題(羅臼湖地区、ウトロ海域、先端部地区等の利用のあり方)の検討
- ・ エコツーリズム戦略の策定に関する合意形成
- ・ 知床半島における保護と利用に関する課題の提示

2 会議での合意内容

- ・ 検討会議の座長はWG座長が務める。
- ・ 全体会合と個別会合に分けて検討を行い、全体会合ではエコツーリズム戦略を、個別会合では羅臼湖や海域レクリエーション等の個別課題を議題とする。
- ・ エコツーリズム戦略については1年をメドに骨子を作成、2年目で具体化し、合意形成を進めた上で、3年目で試行を目指す。
- ・ エコツーリズム戦略の策定にあたっては、地元の意見を広く集約するためワークショップを開催する。
- ・ その他の個別課題については、地元などにおいて検討体制が整理でき次第、順次取り上げて解決を図る。
- ・ 既存の協議会等については、できるだけ早期に準備ができた協議会等から適正利用・エコツーリズム検討会議の個別会合等として連携・統合を図る。

3 今後解決すべき課題

- ・ エコツーリズム戦略の策定手順の検討
- ・ 個別課題の解決枠組みの決定
- ・ 個別課題とエコツーリズム戦略との連携の確保
- ・ (協議会等の統合の手順と時期の検討)

4 今後の主な予定

○平成22年10月頃 第2回適正利用・エコツーリズム検討会議

- ・ エコツーリズム戦略の策定が主要検討課題

○平成23年2月頃 第3回適正利用・エコツーリズム検討会議

- ・ エコツーリズム戦略の策定が主要検討課題

○羅臼湖の適正な利用のあり方およびウトロ海域の適正な利用のあり方に関する個別会合をそれぞれ2回程度開催予定。また、エコツーリズム戦略策定のためのワークショップを数回開催予定。

適正利用・エコツーリズム検討会議の推進体制

知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議（H22.4～）

共有と合意形成の場

専門家、行政機関、地元関係団体等が一体となって、世界遺産地域の適正利用やエコツーリズムを推進していくため、知床国立公園利用適正化検討会議を発展させて設置。

<全体テーマ>

- ・エコツーリズム戦略の策定

<個別テーマ>

- ・羅臼湖の利用のあり方
- ・海域レクリエーション利用のあり方
- ・知床連山縦走路の利用のあり方
- ・先端部地区の利用調整

知床五湖の利用のあり方協議会

カムイワッカ湯の沢利用対策連絡協議会

カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

科学的な視点から助言

適正利用・エコツーリズムワーキンググループ（H22.4～）

座長：敷田麻実氏
（北海道大学教授）
委員数：7名

適正利用・エコツーリズム部会

所属団体：
民間団体…17団体
行政機関…20機関

地域との連携・協働のための会議

知床世界自然遺産地域科学委員会

科学的な知見に基づく順応的な保全管理を実施するために設置。行政が行う事業や施策等について、科学的な視点から助言をします。
特定の課題に対応するため、4つのワーキンググループなどを設置しています。

座長：大泰司紀之氏（北海道大学名誉教授）
委員数：12名

海域ワーキンググループ

エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ

河川工作物アドバイザー会議

ヒグマ保護管理方針検討会

知床世界自然遺産地域連絡会議

日常的に遺産地域の保全や利用に関わっている地元自治体、地元関係団体及び地域住民による現場の視点を活かし、連携・協働による遺産地域の管理を行うために設置しています。

所属団体：

環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、斜里町第一漁協、ウトロ漁協、羅臼漁協、網走漁協、羅臼町・知床世界自然遺産協議会、ウトロ地域協議会、知床ガイド協議会、(財)知床財団、知床エコツーリズム推進協議会

シンボルマーク管理運営部会

世界自然遺産地域管理者

環境省
釧路自然環境事務所

林野庁
北海道森林管理局

北海道

知床国立公園及び知床世界自然遺産地域における保護と利用に関する検討経緯と主な課題

